



Title	少年兵のメンタルヘルス
Author(s)	小川, 真吾
Citation	目で見るWHO. 2015, 56, p. 10-15
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86687
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



少年兵のメンタルヘルス

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス理事長 小川 真吾



Shinji OGAWA

学生時代 マザーテレサの臨終に遭遇したのをきっかけに、マザーテレサの施設でボランティア活動に参加。国際協力やNGO 活動をはじめた。

●テラ・ルネッサンスとは

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンスは、「すべての生命が安心して生活できる社会(世界平和)の実現」を目的に2001年10月に設立されました。

カンボジアの地雷問題に触れ、「まずは伝えること」からと、講演活動を始め、「テラ・ルネッサンス(任意団体)」を設立し、地雷除去資金供与、国内での地雷問題の啓発活動に取り組みから始めました。

私たちは「地雷」、「小型武器」、「子ども兵」という3つの課題に対して、現場での国際協力と同時に、国内での啓発・提言活動を行うことによって、課題の解決を目指しています。

●なぜウガンダなの?



ウガンダは1962年の独立以来、クーデター等が繰り返されたが、1986年のムセベニ政権発足以来、政情は安定している。北部地域では、20年に及ぶ反政府組織「神の抵抗軍」(LRA)との戦闘が続いたが、近隣国と共同の軍事掃討作戦や米国の支援も背景に、LRAはその勢力を縮小し、拠点を国外に移した。北部地域の治安回復に伴い、一時は200万人近くに達した国内避難民の大半が帰還し、復興・開発に取り組んでいる。

1987年以降世界銀行・IMFの支援を得て構造調整政策を積極的に推進し、マクロ経済が安定し、サハラ以南アフリカにおいて最も成長率の高い国の一つとなった。(外務省のホームページより)

●サブサハラでのジェノサイド

宗主国が植民地政策で民族を差別して統治したため、独立後も、対立を引きずって、抗争が続いています。その中で、ジェノサイド(特定の集団等の抹消行為)が発生しました。50万人以上が殺害された1994年のウガンダのジェノサイドは、映画や報道で大きく取り上げられてよく知られています。20万人が殺され、日本ではほとんど知られていない、1972年のブルンジのフツ族とツチ族の対立がこの地域(サブサハラ)でのジェノサイドの最初です。

●ウガンダの内戦

アフリカの東部に位置するウガンダでは、1980年代後半から内戦が始まり、反政府組織「神の抵抗軍(LRA:The Lord's Resistance Army)」と政府軍が約23年間戦闘を繰り返しました。

LRAは、これまでに約6万6千人もの子どもたちを誘拐し、兵士に仕立ててきました。平均年齢が約13歳の子ども兵だけの軍隊も作られました。

2006年8月に、LRAと政府の間で停戦合意が結ばれましたが、最終的な和平合意には至っておらず、2009年5月現在LRAは隣国のコンゴ民主共和国北東部で活動が続いています。

内戦の激しかった北部では、停戦合意に伴い治安

が少しずつ回復しているものの、未だに100万人近い国内避難民がいます。そして、たくさんの元子ども兵が、精神的・肉体的なトラウマを抱え、社会復帰できずに困難な生活を余儀なくされています。

●どうして子どもが兵士になるの

1. みずから志願して兵士になる場合(コンゴではこのケースが多い)
 - ・失業率が高い貧困地域では、就職先として入隊します。
 - ・兵士になると最低限の衣食住が確保できると期待します。
 - ・食糧を奪ったり、人々からお金をゆすり取るための銃がほしくて入隊します。
 - ・身内を殺され、その復讐のために兵士になることもあります。

2. 誘拐されて、強制的に兵士にさせられる場合(ウガンダではほとんどがこのケース)

政府軍や反政府軍勢力が、たまたま街で見かけた子どもを連れ去ったり、小さな町や学校に侵入して数十人を強引に誘拐したりします。子どもは純粋で、洗脳しやすく扱いやすいからです。

冒頭の少年兵のように、まず親や友人を殺させたり、四肢を切り落とさせたりして、他人を殺すことへの抵抗をなくし、コントロールしていきます。

また、麻薬やアルコールを用いて洗脳していきます。

●どうして子どもが兵士になるの

子どもは従順で洗脳されやすく、小柄で機敏です。強制的に徴兵が可能で、すぐに“補充”ができるため、消耗品として扱われます。

具体的な活動

- 敵対勢力のスパイや情報伝達。
- 地雷原の先頭を歩かされ、地雷除去装置として使われる。
- 最前列で行進させられ、弾よけとして使われる。
- 武器や食料のなど重い荷物運び。
- 少女兵の場合、性的虐待や強制結婚をさせられる。

また、規律や上官の命令に反したり任務を怠る子どもにたいしては、他の子どもへの見せしめとして、厳しい体罰、体の一部の切断、場合によっては死刑にする軍隊もあり、他の子どもに罰を与える役目を

担わせることもあります。

●少年兵の正確な数字は

「目に見えない兵士」といわれている子供兵の正確な数はつかめていません。出生証明がなく年齢が不詳のため大人兵として、子供兵としてカウントされないこともあり、また少女は大人兵の妻としてかりだされ、数には含まれません。発表されている子ども兵数字は、DDR武装解除・動員解除・社会復帰(Disarmament, Demobilization, Reintegration)でカウントされた人数で、少年兵のみで少女は含まれていない。

●ナイトコミュニーター



首都カンパラのある南部は写真のように非常に発展していて、ビルも立ち並び、車が走り、携帯電話の普及率も高く、まるで先進国と変わりがないのです。アフリカでは優等な国といわれているこの国で紛争なんて想像できません。

しかし、私が活動したグルのある北部は、紛争が起きていて、乳幼児死亡率が高く、識字率など劣り、同じ国とは思えないくらいです。まず南部に行き活動の準備をして、わたしは北部のグルに行くと言ったら、「現地の人でさえ行かないのに何をしに行くのだ」と聞き返し、日本の外務省も退避勧告も出していて、落ち着いていない状況でした。

そのグルの町には、周辺の村から毎晩少年たちがNPO法人が建てた保護所などに集まり一晩過ごして、夜が明ければ家に帰っていきます。彼らのことをナイトコミュニーター(夜の通勤者)と呼んでいるのですが、神の抵抗軍が夜なかに村を襲うことが多

いので、子供たちは避難しているのです。



●武器の数は減らない

小型武器ができ、子供でも容易に扱えます。これらの武器は、様々な経路を経由して、アフリカに入ってきています。紛争の被害者の多くは小型武器によって殺されています。そのため、小型武器を回収して破棄という取り組みが行われ、毎年400万丁を回収して破棄しているのですが、毎年800万丁があらたに作られていて、小型武器は増えています。世界で確認されている小型武器の数は、8億6500万丁と言われていて、最大の輸出国はアメリカで、武器を作るほとんどの企業は先進国にあります。子供兵の事を考える時、この小型武器のことを外すことはできません。

●子供兵が解放されるチャンス

政府軍との戦闘の時に帰ってくる子どもが多い。隠れていたり、負傷して神の抵抗軍から見放されたりすると、政府軍に保護されます。そのグルの町には、周辺の村から毎晩少年たちがNPO法人が建てた保護所などに集まり一晩過ごして、夜が明ければ家に帰っていきます。彼らのことをナイトコミュニティー(夜の通勤者)と呼んでいるのですが、神の抵抗軍が夜なかに村を襲うことが多いので、子供たちは避難しているのです。

●武器の数は減らない

小型武器ができ、子供でも容易に扱えます。これらの武器は、様々な経路を経由して、アフリカに入ってきています。紛争の被害者の多くは小型武器によって殺されています。そのため、小型武器を回収

して破棄という取り組みが行われ、毎年400万丁を回収して破棄しているのですが、毎年800万丁があらたに作られていて、小型武器は増えています。世界で確認されている小型武器の数は、8億6500万丁と言われていて、最大の輸出国はアメリカで、武器を作るほとんどの企業は先進国にあります。子供兵の事を考える時、この小型武器のことを外すことはできません。

●子供兵が解放されるチャンス

政府軍との戦闘の時に帰ってくる子どもが多い。隠れていたり、負傷して神の抵抗軍から見放されたりすると、政府軍に保護されます。



目を打ち抜かれた子供(写真右側)は10歳から21歳まで11年間働いていた。「私は新しい闇につつまれた。村に帰ったが、約10年、戦闘に借り出されても、村に帰って、生活をやり直すという希望があった。しかし、失明したので、故郷の風景、母親の姿をみることが出来ない状態になった。」手に持っているのは、目が見えないなりに作成したドアマットです。12歳で誘拐され、17歳で解放されたウガンダ北部の子ども兵(写真左側)は、「僕には家族がいて普通に暮らしていました。ある日、お母さんが隣村まで用事で出かけました。僕はお母さんの帰りが待ち切れず、隣村に迎えに行きました。その途中で、銃をもった兵士たちに囲まれ、反政府軍の部隊に連れて行かれたのです。数日してからでした。大人の兵士たちは、僕を村まで連れてくると、お母さんを前にしてこう命令しました。『この女を殺せ』。僕のお母さんを銃の先でこぶきました。怖くて怖くて仕方がありませんでした。もちろん、『そんなことできな

い』といいました。そうすると、今度は鉈を持たされ、『それなら、片腕を切り落とせ！ そうしなければお前も、この女も殺す』と脅されました。僕はお母さんが大好きでした。恐ろしくて腕がふるえ、頭の中が真っ白になりました。とにかく、お母さんもぼくも、命だけは助けてほしいと思いました。ぼくは手渡された鉈をお母さんの腕に何度もふりおろしました。手首から下が落ちました。そのあと棒を渡され、兵士は「お母さんを殴れ」と命令しました。ぼくはお母さんを棒で殴りました。お母さんは気を失っただけで、命は助かりました。僕はそのまま兵士に部隊へ連れていかれ、3年間兵士として戦っていました。」この子と初めて会ったとき、顔は硬直し、目の視点もあっていなくて、蝸人形のように表情がありませんでした。

●元子ども兵が抱える問題～ウガンダの場合～

被害者であり、加害者でもある元子ども兵

1. 身体的、精神的トラウマ

「人殺し」の現場に居合わせ、自ら人を殺さされ、四肢切断を強要される、食料を略奪され、レイプ

されるなど、反政府軍で受けた身体的および精神的な傷の深さは深刻です。

帰還後も、悪夢にうなされたり、精神的に不安定になったりしやすいという特性が見られます。

2. 地域コミュニティからの偏見や差別

除隊後に受ける「元LRA」「人殺し」「LRAの子どもを持つ女」というコミュニティからの差別は深刻です。地域住民からの「人殺しの仲間だから、この村から出て行け」といった言葉を浴びせかけられるようないじめを受けることがあります。

軍事訓練以外の教育を全く受けておらず、基本的な読み書きができないことに加え、子ども時代を軍隊という特別な環境で過ごした結果、「権力さえあれば何でも手に入る」といった暴力的な思考が身についたり、感情をうまく人に伝えるというコミュニケーション力が不足したりしています。そのため、再び暴力に走るといった状況が少なくありません。このような背景の中、一部の地域では、帰還後の貧しい生活に耐え切れず、自ら再び軍隊に志願する子どももいます。

事業の目的

【元子ども兵の社会復帰】

元子ども兵が社会復帰する為に必要な能力を身につけ経済的に自立すると共に地域住民との関係を改善しながらコミュニティで安心して暮らせるようになる

○指標① 社会復帰後の収入額/月

○指標② 地域住民との関係性(差別・偏見の有無/相互扶助の有無)

定義:

社会復帰とは、元戦闘員が市民としての地位を確立し、持続的な雇用と収入を得て、自立するまでのプロセスである。本質的には、一定の時間に縛られずに、地域レベルのコミュニティにおいてなされる社会的、経済的なプロセスである。また、その実施は、国家の発展と開発の一部として位置付けられ、国の責任の下に実施されるが、しばしば外部からの長期的な支援が必要となるものである」(Note by the Secretary-General) A/C.5/59/31より、筆者訳。

(第59回国連総会における事務総長の書簡より)

●ウガンダでのテラ・ルネッサンスの取り組み

帰還した元子ども兵の3年以内の自立を目指します。

当会ではグル県の現地NGOであるGUSCOが運営する社会復帰センターと連携し、そこでリハビリ

を受け、集落に帰還した元子ども兵を対象にプロジェクトをおこなっています。

元子ども兵の社会復帰に必要な科目をカリキュラムに組み入れ、プロジェクト目標達成の為に下記4つの活動を通して包括的に支援しています。また、

元子ども兵と近隣住民の和解促進、関係改善の為に貧困層の近隣住民も受け入れ、元子ども兵と共に平和教育や和解促進の為にワークショップ、小規模ビジネスの指導を行っています。

①BHN 支援活動 Basic Human Needs (BHN) Support



1. BHN 支援活動

- プロジェクト前半のフルタイム訓練期間中、受益者とその家族の状況に応じて毎月の食費と医療費をクーポンで配布しています。食費・医療費にのみ使用することが目的のため、現金は渡していません。
- クーポン券は受益者各自の近くの食料品店、地域の診療所でのみ使えるよう当会と契約しており、そこで治療できない病気や怪我は総合病院や専門の機関で診療できるよう調整しています。
- また受益者の状況に応じて、(チャイルドマザーの)子どもの学費、家賃などの支援も行い、訓練期間中、受益者が訓練に集中できるよう本人とその家族の生活を支援しています。



現地で活動する小川氏(左端)

②能力向上支援活動 Capacity building Support



2. 能力向上支援活動

- 受益者が収入向上活動を始めるために必要な職業技術、識字・計算能力などの能力向上のための訓練をしています。
- 洋裁、手工芸、服飾デザイン、木工大工の4つの職業訓練科目と基礎教育(識字、算数、英語)や基本的な健康管理のクラスを開講。カリキュラムの約半分は職業訓練科目で構成されています。

③心理社会支援活動 Psychosocial Support



3. 心理社会支援活動

- 受益者個別に悩みやトラウマの程度も様々なので、個別カウンセリングとグループカウンセリングのクラスを開講し、クラス活動では音楽や伝統ダンスなどを行っています。
- また、週に1回、元子ども兵とその近隣住民を対象に平和教育の授業を開講。アチョリ民族(ウガンダ北部に住むナイル系民族)の伝統的な和解方法などについて共に学ぶ機会を提供しています。また、受益者の状況に応じて伝統的儀式を通して

精神的な安定を図る取り組みも行っています。

④収入向上支援活動 (Income Generation Activity)



4. マイクロクレジット支援活動

○ビジネスのクラスを週1回開講し、貯蓄の重要性、ビジネスの基礎的な知識などマイクロクレジットを使って収入向上活動をしていくために必要な知識、方法の習得を目指しています。

○この活動では元子ども兵の受益者に加え、各自の近隣の貧困層の住民をパートナーとして受け入れています。

○支援開始から約1年半経過を目処にマイクロクレジット(銀行から融資を受けられない人々や失業者への少額で低金利の融資をおこなう金融サービス。多くの場合女性の事業主が貧困を脱却することに成功しており、債務返済率もきわめて高いのが特徴。)を供与し、収入向上活動を始めます。その間は定期的にビジネスに関する相談を行っています。

これまで2005年から受け入れて156名の元兵士を受け入れました。平均年齢は12歳です。卒業した子ども兵のうち、事業成果を表にまとめました。

これまでの変化(成果)					
評価項目	職業技術能力	基礎教育レベル	小規模ビジネス運用能力	収入(月収)	周囲からの差別と偏見 地域住民との相互扶助活動
支援開始前	19% (24%*)	23% (36%*)	0%	3,210Ush (約128円)	74% 0%
支援完了後	80%	72%	78%	175,200Ush (約7004円**)	18% 97%

受け入れ当初は、当然収入0ですが、3年間の訓練

後、月7000円となり、公務員の初任給が8000円、また2010年のウガンダ北部の平均収入は14万シリングで、これよりも日本円7000円(17万シリング)の方が高いのです。

周囲からの偏見差別は74%から16%へ減っています。地域で自分だけお金があって自立できれば良いわけではなく、相互扶助の関係ができてることが重要で、この指標も、改善しています。

●社会復帰の達成度から事業評価

事業評価

—元子ども兵の社会復帰支援において重視すべき視点—

①個人の特質や置かれた状況に着目したミクロ的な視点

②脆弱な部分だけに着目するだけではなく、対象者の持つ潜在的な能力を重視する視点

③レジリエンスを重視する視点

⇒自発性と多様な発展プロセスを尊重すること

⇒対象者の「選択の自由」を尊重すること

⇒周囲との関係性に配慮すること

①拘束された期間や、性別、村に帰った後の受け入れ態勢の有無、誘拐された年齢、初等教育の有無などの個人の特質や置かれた状況に着目したミクロ的な視点から個別対応が重要です。

②脆弱な部分だけに着目するだけではなく、対象者の持つ潜在的な能力を重視することが大事です。

③レジリエンス(跳ね返って戻って来る力、回復力、しなやかな強靱性)を重視する視点が必要です。人が置かれている環境が脆弱であればPTSDを発症しやすいと言われていたが、そのような環境におかれていた人のほうが、普通の人以上適応力を示すこともあり、残酷な経験から脆弱な部分があってもレジリエンスが機能しておれば適応していく力があるというような視点をもつことも必要です。

2005年から6年間特定非営利活動法人テラ・ルネサンスのウガンダ事務所で、子供兵の社会復帰の支援を行ってこられた、小川真吾先生の講演内容を、jaih-sの方の報告をもとにして「目で見えるWHO」編集部で講演録を作成しました。

WHO への人的貢献を推進しよう

新居合同税理士事務所

代表税理士 新居 誠一郎

〒546-0002 大阪市東住吉区杭全1-15-18
Tel 06-6714-8222 Fax 06-6714-8090

岩本法律事務所

弁護士 岩本 洋子
弁護士 藤田 温香

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-1-19-901
サンメゾン北浜ラヴィッサ9F
Tel 06-6209-8103 Fax 06-6209-8106

医療法人 光陽会

小森内科

院長 小森 忠光

〒558-0011 大阪市住吉区荻田7丁目11番10号
平元ハイツ 1F
Tel 06-6696-1171 Fax 06-6696-1173

大光印刷株式会社

代表取締役社長 細川 雄大

〒546-0042 大阪市東住吉区西今川1丁目16番4号
Tel 06-6714-1441(代) Fax 06-6714-9393

株式会社 プロアシスト

代表取締役 生駒 京子

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2-3-9
星和高麗橋ビル1F
Tel 06-6231-7230 Fax 06-6231-7261

日本ポリグル株式会社

代表取締役 小田 節子

〒540-0013 大阪市中央区内久宝寺町4-2-9
Tel 06-6761-5550 Fax 06-6761-5572

金鳥 渦巻
かとりせんこう



金鳥の蚊取線香【世界初の除虫菊を含む蚊取線香】が
「重要科学技術史資料(未来技術遺産)」に登録されました
(国立科学博物館による登録)



創業者 上山英一郎は、世界初の蚊取線香を1890(明治23)年に発明。
蚊取線香は世界中に輸出され、マラリア等 蚊が媒介する疾病の予防に大きく貢献し、
人々の健康を増進し、現在でも広く用いられています。

 KINCHO